



健康長寿をみんなで一緒に！



服薬を自己中断している利用者が多く、その疾患としては生活習慣病や認知症などが多いという結果が示されました。特に生活習慣病では、非流行地域と比較して東京都では3.9倍の服薬中断が起きていました。コロナ禍の中では、医療機関の受診を控えてしまい健康を損ねるご高齢の方が増えることが明らかになりました(図1)。

図1

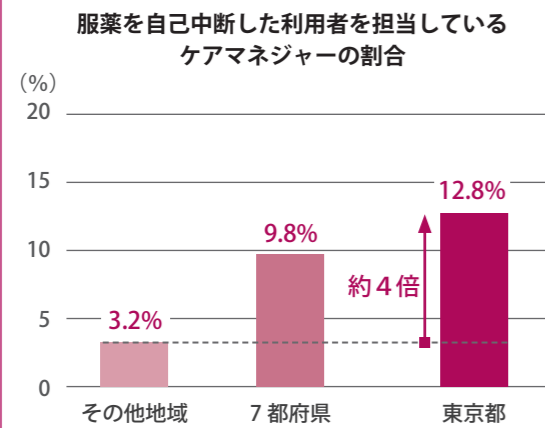
お薬を自己中断した利用者やその疾患などについてアンケート調査結果の概要

※出典元：ケアマネジメント・オンライン (株式会社インターネットインフィニティ / CMNR メディカル (第14回)「新型コロナウイルスの影響に関するアンケート」/調査サンプル：会員ケアマネジャー759名/令和2年7月22日公表) ©詳しい調査結果は右QRコードから(公表されている資料にアクセスできます)→



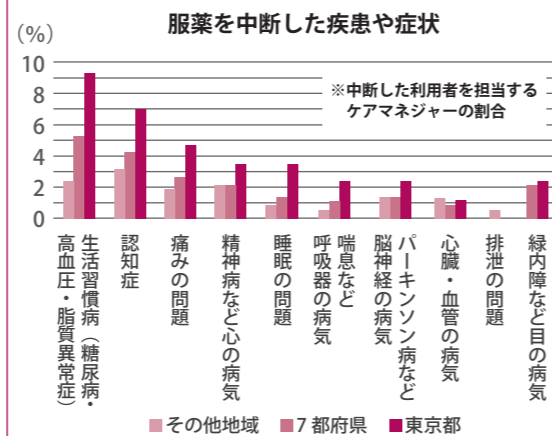
この調査は、全国のケアマネジャー(「ケアマネジメント・オンライン」に登録する会員ケアマネジャー)を対象に、服薬を自己中断した利用者やその疾患などについてアンケートを実施し、感染が拡大する地域(東京都、7都府県)とそうでない地域に分けて解析されたものが示されています。ここでは、その結果の一部をご紹介します。

Q1 / 新型コロナウイルス感染症の影響で服薬を自己中断した利用者はいますか？



「新型コロナウイルス感染症の影響で服薬を自己中断した利用者」を担当しているケアマネジャーは全体で6.5%。「東京都」と、4月7日に緊急事態宣言が発令された「7都府県(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、大阪府、兵庫県、福岡県)」、「その他の地域」の3グループに分けて比較した結果、「東京都」では「その他の地域」の約4倍になっていることが示されています。また、服薬中断の主な理由は、「受診できないことによる薬切れ」が挙げられています。

Q2 / 新型コロナウイルス感染症の影響で服薬を中断した疾患や症状は何ですか？



「新型コロナウイルスの影響で服薬を中断した疾患」は、「東京都」では、最も多い回答は「生活習慣病」(9.3%)、次いで「認知症」(7.0%)、「痛みの問題」(4.7%)、「心の病気」「睡眠の問題」(同3.5%)が示されています。

「その他の地域」と「東京都」を比較すると、東京都では「睡眠の問題」「喘息」(同4.4倍)、「生活習慣病」(3.9倍)、「痛みの問題」(2.5倍)、「認知症」(2.2倍)となっていることが示されています。

※「ケアマネジメント・オンライン」調べ

第7回 STAY HOME における服薬管理

ウチで過ごそう

鹿児島大学病院 薬剤部 副薬剤部長 井上和啓



NexMo 関連情報はQRコードからWEBへ

たるみず元気プロジェクト (健康チェック)



NexMo 健康長寿啓発事業 (令和2年8月～)



鹿児島大学病院 薬剤部



厚生労働省 電話・オンライン診療



はじめに

新型コロナウイルス感染症の猛威は鎮まるところを知りません。新型コロナウイルスに感染された方の中での感染経路が不明の方の割合が増加してきており、普通の生活を送っていても、いつ感染するか分からない状況になってきています。このような状況では、外出するのも躊躇してしまいます。

厚生労働省は、重症化するリスクの高い方として、65歳以上の方、呼吸器疾患を有する方、腎臓疾患や心臓疾患、血管疾患、糖尿病、高血圧症、肥満等で臓器等の機能が低下しているおそれがある方、臓器移植、免疫抑制剤、抗がん剤等の使用により免疫機能が低下しているおそれがある方や妊婦等を挙げていますので、お年を召されている方や基礎

疾患をお持ちの方が外出を自粛しご自宅で生活する時間が長くなるのはやむを得ないことだと思えます。今回、「STAY HOME」を遵守される際のお薬の管理についてお話しさせていただきます。

医療機関への受診控え

実際に、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策として外出を自粛する中で、医療機関への受診控えが問題になりました。

インターネットインフィニティ社(健康寿命の延伸をテーマに事業展開する民間企業)は、全国の759名のケアマネジャーを対象に、お薬を自己中断した利用者やその疾患などについてアンケートを実施し2020年7月にその結果を公表しています。

その報告を見ると、やはり感染が拡大している地域ほど